



将来の夢はありますか？

青木 南魚沼市が好きなので、地元でいたいと思っています。小学生のころから消防が好きで、中学2年生の時の職場体験で消防署に行きました。やはりカッコいいなと思います、将来は消防士になりたいと思っています。

市長 今市内の20歳代の女性のうち、約10人に1人が外国人です。今は救急時に、さまざまな言語に対応できるような仕組みがあるけれど、英語のできる消防士は絶対必要だと思います。

大平 私はパイロットになりたいです。パイロットの仕事を集めているテレビ番組を見て、カッコいいと思いました。世界中を飛び回っているいろいろな発見があって、やりがいのある仕事だなと思いました。

坂西 人の笑顔が直接見られる仕事がしたくて、今はウエディングプランナーに興味があります。計画を立てるのも好きなので、その人の一生に一度の幸せを間近で見たいと思っています。

酒井 パティシエか英語を使った職業に就きたいと思っています。市長 みんな具体的な夢を持っていますね。私は、幼いころから漫画家か絵描きになりたくて夢

をみていました。でも、中学3年生の時に読んだ本で考え方が変わりました。今の気持ちがいい方向に変わっていくこともあるかもしれないですね。

これからもっと国際化を進めるのに、何か提案などはありますか？

大平 英語の授業を受けているだけでは英語力は身に付かないと思います。英語は言葉で、コミュニケーションの1つなので、交流して会話する機会があるといいと思います。

市長 小学生から国際科の授業が始まったり、ALT（外国語指導助手）の授業があると思いますが、それだけで足りないと思いますか？

前教育長 国際大学の留学生と交流する機会があったりしますが、そういう実体験を増やすことが大事なことですね。

大平 そうですね。
坂西 東京オリンピックピックで外国人の人がたくさん来ると思うので、道案内できるくらいの英語は覚えた方がいいと思います。中学2年生の修学旅行で、外国人に必ず声をかけるという課題があって緊張した経験があるので、

習うだけじゃなくて体験することが大事だと思います。

酒井 英語の授業では、文法を習ったり、ノートを書いたりすることが多いです。もっと外国人と話すためには、英語で話す時間を多くしたり、外国人と実際に話して発音や使い方を覚えたら、英語力が伸びると思います。

青木 中学の部活動で国際大学の人たちがその家族と接することがありました。子どもの親は現地の言葉しか話せないのですが、低学年の子どもが現地の言葉を通して聞いていました。英語も必要だけれど、市には国際大学があっていろいろな国籍の人がいるので、英語以外の言語にも対応しなきゃいけないと思いました。

市長 市内の保育園には、14か国語が飛び交うクラスがあります。全国でも珍しいと思います。先生たちも大変な思いをしています。食文化も違うので食べてはいけないものもある。国際理解異なる文化を認め合う気持ちがないと難しいですね。

原澤 小学1年生から国際科の授業があって、子どもたちにとっていろいろな知る機会になっていいと思います。実体験が一番